

J-クレジット制度 排出削減プロジェクト・ 検証報告書

プロジェクトの名称：

オアシス篠栗における木質バイオマスボイラー導入による
CO₂削減プロジェクト

検証機関名	ビューローベリタスジャパン株式会社
-------	-------------------

発行日 2016年1月20日

1 検証機関の情報

※ 本項目は、J-クレジット制度認証委員会資料として使用されます。

※ 「判断の根拠」に関する項目については、根拠としたモニタリング報告書等の章番号、該当頁等を記載するとともにその妥当性について記載すること。(以下、本文書を通じて同様)

機関名称	ビューローベリタスジャパン株式会社
プロジェクトに関係する者との利害抵触	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
判断の根拠	プロジェクト関係者に対する利害関係がないことを、契約レビュー時にチェックシートで確認を行っている。 担当審査員に対しては、検証業務の依頼時に、利害相反がないことを確認している。

2 プロジェクト実施者の情報

※ 本項目は、J-クレジット制度認証委員会資料として使用されます。

プロジェクト代表実施者 ※プログラム型プロジェクトの場合、「プログラム型運営・管理者」を記載すること。	篠栗町 健康課 課長 村瀬 修 様
プロジェクト実施者（代表者以外） ※プログラム型プロジェクトの場合、「削減活動の実施者」を記載すること。	(なし)
類似制度における認証の有無 ※今回認証を申請する期間と同一の期間において、同一のプロジェクトに基づく認証を他の類似制度によって受けているか	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし

3 検証結果（総括）

※ 本項目は、J-クレジット制度認証委員会資料として使用されます。

プロジェクト名、登録番号		オアシス篠栗における木質バイオマスボイラー導入によるCO ₂ 削減プロジェクト No.11
適用方法論	方法論番号	EN-R-001 Ver.1.1
	方法論名称	バイオマス固形燃料（木質バイオマス）による化石燃料又は系統電力の代替
今回認証を申請する期間 ※実施要綱に定められた認証対象期間内に設定されていることを確認して記載すること。		2014年1月10日～2015年10月31日 ■プロジェクト登録時に定めた認証対象期間内でありかつ認証済の期間外である □上記期間以外
過去の認証状況 ※過去に排出削減量の認証を受けている場合には、各期間と方法論ごとの認証されたトン数を記載すること。認証回数増加に併せて適宜行を追加して記載すること。	第1回	年 月 日～ 年 月 日 (t-CO2)
	第2回	年 月 日～ 年 月 日 (t-CO2)
	第3回	年 月 日～ 年 月 日 (t-CO2)
	第4回	年 月 日～ 年 月 日 (t-CO2)
	第5回	年 月 日～ 年 月 日 (t-CO2)
排出削減・吸収量 また、複数方法論の場合は、プロジェクトとしての合計値を記載すること。	今回認証を申請する期間の合計値（実績値）	196t-CO2
	今回認証を申請する期間のプロジェクト計画書における排出削減・吸収見込量 ※プロジェクト計画書における排出削減・吸収見込量の合計値	138t-CO2

	を、今回認証を申請する期間で按分すること。	
省エネルギー量 ※省エネルギー等分野の方法論 (方法論番号が EN-S で始まる方法論のうち廃棄物由来燃料を使用しないもの) を用いたプロジェクトの場合には、今回認証を申請する期間の省エネルギー量の実績値を記載すること。 また、複数方法論の場合は、プロジェクトとしての合計値を記載すること。		kl
	<p>検証の基準 ※適用した制度文書類のバージョンを記載すること</p>	<p>文書名：実施要綱 Ver. 2.2 文書名：実施規程（プロジェクト実施者向け） Ver. 2.1 文書名：実施規程（審査機関向け） Ver. 1.1 文書名：モニタリング・算定規程(排出削減プロジェクト用) Ver. 2.3</p>
プロジェクト実施者と合意した検証の前提	<p>目的 ※プロジェクトの実施によって、モニタリング報告書における排出削減量・吸収量が実際に生じたことの評価を行うことも目的に含めて記載すること</p>	<p>プロジェクト事業者が作成したモニタリング報告書に記載された情報が、その作成基準である実施要領 Ver.2.2、実施規程（プロジェクト実施者向け） Ver.2.1 に準拠しているかどうかを確かめるために、関連する証拠を客観的に収集・評価し、その結果を表明する。</p>
	<p>範囲 ※検証の範囲がプロジェクト計画書及びモニタリング報告書の範囲であることを記載すること</p>	<p>検証の範囲は、モニタリング報告書に記載された、“オアシス篠栗において既存の LPG ボイラーに変えて木質バイオマスボイラーを導入し、CO₂を削減するプロジェクト” による排出削減量である。</p>

	保証水準の基準 ※検証の結論を意見として表明する際に採用した水準を記載すること	合理的保証
検証手続 ※現地審査の実施有無について記載すること。また、実施していない場合は、実施省略条件を満たしていることについて記載すること。 ※実際に実施した手続、スケジュールについて、サンプリング手法も含めて記載すること。		<input checked="" type="checkbox"/> 現地審査を実施した（2015年12月22日に訪問） <input type="checkbox"/> サンプリングで現地審査を実施した（ 年 月 日に訪問） <input type="checkbox"/> 現地審査を実施していない （理由） <input type="checkbox"/> 妥当性確認の審査も担当した。 <input type="checkbox"/> 妥当性確認における実地審査時点でのプロジェクト計画が、原則として排出削減量に関わらない事項を除き修正されることなく、プロジェクト登録されている。 <input type="checkbox"/> 前回の実地審査から1年以内である。 （前回実地審査： 年 月 日に実施）
修正・指摘事項及び解決方法 ※4における結果を総括し、排出削減量・吸収量に影響を与える可能性のある、主な誤り、指摘事項について記載すること。		指摘事項 1. 生成熱量の-集計間違い並びに熱量計の精度による補正がされていない点を指摘した。 2. 灯油消費量の集計間違いを指摘した。 3. チップ購入量の集計間違いを指摘した。 4. 実施後の追加設備の定格電力の集計間違いを指摘した。 解決方法 上記1～4を現地審査時に指摘し、事業者は間違いであることを確認し、修正した。
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 無限定適正 <input type="checkbox"/> 不適正 <input type="checkbox"/> 意見不表明
検証結果	意見・結論 ※4における結果を総括し、検証結果における意見の理由を記載すること。	事業者が作成したモニタリング報告書は、プロジェクト事業の要件を満たしており、モニタリング報告書の排出削減量に含まれる誤差は重要性の量的基準値として定められた排出削減量の5%未満であることが確認された。したがって、全ての重要な点において適正であると認め、「無限定適正」とする。